

スタートカリキュラムの編成の仕方・進め方がより分かる

スタートカリキュラム **学びの接続** モデルリーフレット

～幼児教育と小学校教育をつなぐ工夫～



大阪府幼児教育センターイメージキャラクター
大阪府教育センター附属高等学校 生徒作品

大阪府幼児教育センター



「ゼロからのスタートじゃない、スタートカリキュラム」

幼児教育では、環境の中に教育的価値を含ませながら、子どもが自ら興味や関心をもって環境に取組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしい関わり方を身に付けていくことを意図した「環境を通して行う教育」を基本としています。そして、遊びを通した総合的な指導によって、「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を育むことをめざしています。この幼児教育を通して、子どもたちの幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を示したものが、幼稚園教育要領や保育所保育指針等で示された“10の姿”です。そして小学校では、幼児教育で育まれたこれらの姿をベースにして、各教科等の特性に応じた学びを行うことが求められています。これら『幼児教育における学び』と『小学校教育における学び』の仲立ちとなるのが、「スタートカリキュラム」です。

新入学期に幼児教育で培った力や経験を基盤としたカリキュラムを編成することで、子どもたちの安心・成長・自立につなげていくことができる、というのがスタートカリキュラムの考え方です。新入学期に、新しい環境の中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるよう活動を編成することが有効です。生活科や合科的・関連的な学習では、活動や体験が大切になってきますが、それが目的になるのではなく、活動や体験を通してこれらの力を育むという視点を大切にしています。

スタートカリキュラムに、幼児教育の考え方を取り入れることで、子どもに安心感が生まれます。スタートカリキュラムで、幼児期の経験を小学校の学習につなぐと、子どもは自信をもち成長していきます。スタートカリキュラムを入り口として小学校の6年間を見通すことが、子どもの自立につながります。幼稚園、保育所、認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、スタートカリキュラムを編成し実施しましょう。

スタートカリキュラムは、ゼロからのスタートではないのです。

目 次

理解



幼児教育の考
え方をとりい
れましょう。

幼児教育と小学校教育のちがいとは？	1
幼児教育ってどんなことをしているの？	2
幼児期の子ども理解	3
幼児教育と小学校教育の接続の必要性	5

実践



幼児期の経験
を小学校の学
習につなげま
しょう。

スタートカリキュラムとは	5
スタートカリキュラムをつくってみよう	6
スタートカリキュラムをつくる4つの要素	6
スタートカリキュラムモデル第1週目	8
スタートカリキュラムモデル第2週目	9
スタートカリキュラムモデル第3週目	10
スタートカリキュラムモデル第4週目	11
スタートカリキュラムモデル第5週目	12
スタートカリキュラムの授業モデル1	13
スタートカリキュラムの授業モデル2	14
スタートカリキュラムの授業モデル3	15
環境構成の工夫	16

改善



色々な視点を
とりいれ
ましょう。



監修 大阪総合保育大学 教授 大方 美香
大阪私立幼稚園連盟 理事長 安達 譲
協力 大阪教育大学教職大学院 院生 胡 精吾

※ 幼児教育と小学校教育のちがいとは？

（※3歳以上の幼児期の施設で受ける教育を「幼児教育」と呼びます。）

■ 教育目標のちがい

幼児教育は方向目標

「～を感じる」「～を味わう」の方向づけを重視

※ 小学校教育は到達目標

「～できるようにする」といった目標への到達を重視

■ 教育課程のちがい

幼児教育は経験カリキュラム

遊びを通して5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を総合的に学ぶ

※ 小学校教育は教科カリキュラム

各教科等の学習内容を系統的に学ぶ

■ 幼稚園・保育所・認定こども園のちがいとは？

	幼稚園	保育所	幼保連携型認定こども園
根拠法	学校教育法	児童福祉法	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（認定こども園法）
管轄省庁	文部科学省	厚生労働省	内閣府・文部科学省・厚生労働省
施設名称	学校	児童福祉施設	学校及び児童福祉施設
目的	幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する（学校教育法第22条）	保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育する（児童福祉法第39条）	子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うこと（認定こども園法第2条）
保育内容の基準	幼稚園教育要領	保育所保育指針	幼保連携型認定こども園教育・保育要領
基本的な考え方	幼児期の特性を踏まえ、環境を通して教育を行う	福祉を積極的に増進することに最もふさわしいものでなければならない	幼稚園的機能と保育所的機能の両方を合わせて持ち、小学校就学前の子供の教育・保育・子育て支援を一体的に提供する

■ 幼稚園・保育所・認定こども園の共通点とは？

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容の5領域は、3歳以上について同じ内容で規定されています。

※ 大阪府では、これらの総称として「幼児教育」という用語を使用しています。

幼児教育ってどんなことをしているの？

幼稚園教育要領に定める5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を遊びを通して総合的に学びます。

5領域とは、

心身の健康に関する領域

健康：健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

人とのかかわりに関する領域

人間関係：他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

身近な環境とのかかわりに関する領域

環境：周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

言葉の獲得に関する領域

言葉：経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

感性と表現に関する領域

表現：感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

—ものを転がして遊ぶことを楽しむ例—

* 様々な斜度、素材で試す

* 転がり方（摩擦・回転など）に関する発見

* 友達と
かかわる

* 順番にする

* 意見の
対立と葛藤

* 片付けを
する



* 互いに観察
する

* アイデア
を出し合う

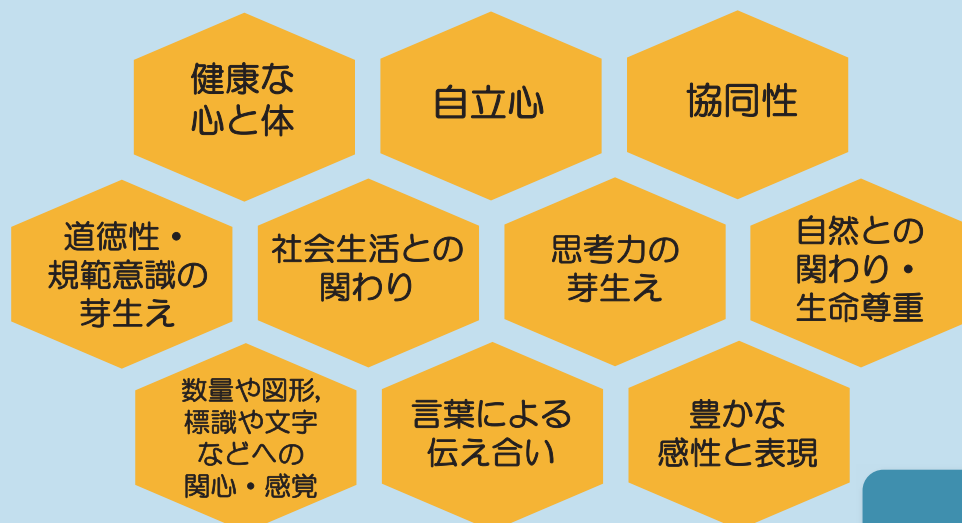
* 友だちに
説明する

* 友だちに
話す

【資料3】幼児期の教育と小学校教育の接続について 幼児期の教育の特質②
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議
第1回配付資料よりhttp://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/gijigaigyuu/_icsFiles/afieldfile/2010/06/11/1293215_3.pdf

幼児期の子ども理解

（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）



ここがポイント！

（児童期のはじめに発揮できる姿）

「～ようになる。」という表現、それはつまり方向性

①健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、**工夫したりする**など、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、**自分の考えをよりよいものにする**ようになる。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、**好奇心や探究心**をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、**自然への愛情や畏敬の念をもつ**ようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、**命あるものとしていたわり、大切に**する気持ちをもって関わるようになる。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に**気付いたり**し、自らの必要感に基づきこれらを**活用し、興味や関心、感覚をもつ**ようになる。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、**言葉による伝え合いを楽しむ**ようになる。

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で**表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい**、意欲をもつようになる。

【平成29年3月告示 幼稚園教育要領より】

■ 幼児教育の重要性

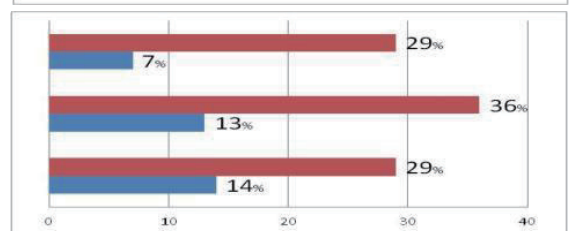
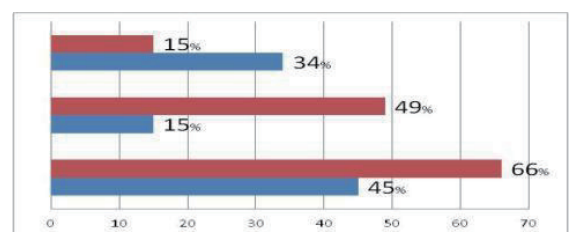
世界的に幼児教育の重要性を示す研究が進んでいます。ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・J・ヘックマン教授らの研究では、質の高い幼児教育を受けることにより、その後の高校卒業率や平均所得が高くなるという調査結果(ペリー就学前計画の結果による)が示されています。

教育的効果

特別支援教育の対象
14歳時点の基礎学力の達成
留年・休学せずに高校卒業

40歳時点での経済効果

月給2,000ドル以上
持ち家率
生活保護の非受給率



■ 就学前教育を受けた子ども ■ 対象グループ

【ジェームズ・J・ヘックマン, 2015『幼児教育の経済学』東洋経済新報社, p30より】

幼児教育と小学校教育の接続の必要性

小学校に入学したばかりの児童が落ち着いて教員の話を受けなかったり、教室を歩き回ったりして授業が成立しない問題（以下、小1プロブレム）が全国的に取り上げられて20年が経とうとしています。この間、小1プロブレムの予防と解消に向けて**幼児教育と小学校教育をつなぐ幼小接続の考え方**が重要であることが国内外の多くの研究から明らかとなってきました。

■ 幼小接続と幼小連携・交流のちがい

幼小接続とは

幼児教育と小学校教育の接続を見通した教育課程の計画・実施

幼小連携・幼小交流とは

教員同士や子ども同士の行事や遊びを通しての連携・交流

なぜ、

スタートカリキュラム？



スタートカリキュラムとは

■ 幼児教育と小学校教育の接続を見通した教育課程

生活科を中心とした合科的・関連的な指導も含め、**子どもの生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫**を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「**見方・考え方**」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期のカリキュラム

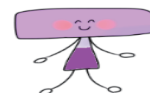
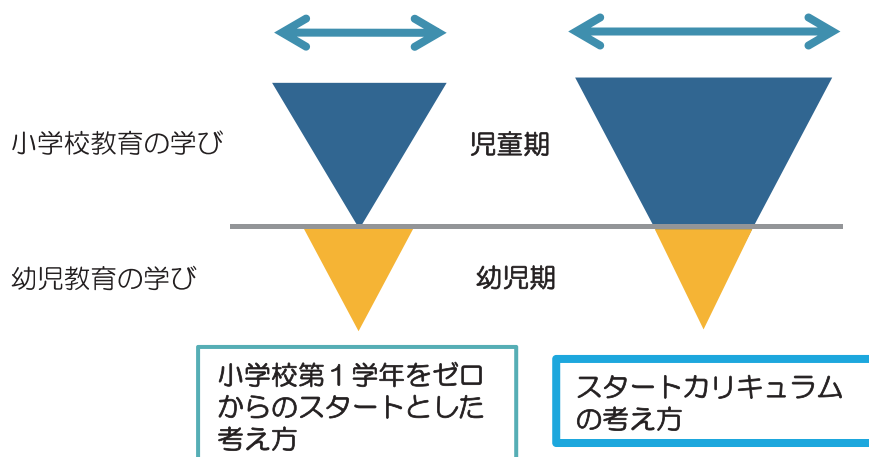
【中央教育審議会、平成28年12月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」別添資料7-2生活科より】

幼児教育における「見方・考え方」

幼児教育における「見方・考え方」は、幼児がそれぞれの発達に即しながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりすることである。

小学校第1学年はゼロからのスタート？

小学校に就学する子どもたちは、幼稚園・保育所・認定こども園・家庭などでの様々な体験や学習を経験しています。小学校教育を幼児教育からの延長と考えて、子どもたちの成長をのばしていきましょう。



小学校第1学年をゼロからのスタートではないと意識することで、幼児教育からの学びを生かした小学校教育が展開され、子どもたちのよりよい成長につながります。

スタートカリキュラムをつくってみよう

これまで（前年度）の1年生4月のカリキュラムを参考にして、入学してくる子どもたちに合わせたスタートカリキュラムを作成します。

「カリキュラムを新たにつくらなければならない」ということではなく、これまでも行ってきた1年生の4月の週案などをベースにして、幼児教育の学びを小学校教育につなぐ工夫を取り入れて考えてみましょう。

スタートカリキュラムをつくる4つの要素

1 幼児期の子ども理解

入学時の子どもは、鉛筆や教科書を使うことに憧れをもっています。しかし、入学時の子どもの発達や学びには個人差があります。一人ひとりの子どものよりよい成長につながるスタートカリキュラムを編成しましょう。

2 時間割や学習活動の工夫

子どもの発達の特徴から20分や15分のモジュールや2時間続きの時間割を構成したり、からだ全体を使って学ぶ活動のある学習を計画しましょう。

3 合科的・関連的な指導の充実

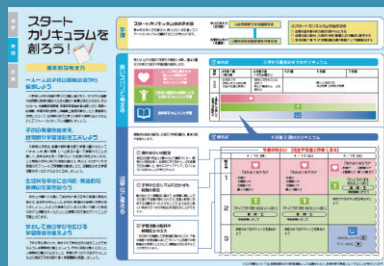
自分との関わりを通して総合的に学ぶ子どもの発達の特性から教科で区切らない総合的な学習を意識しましょう。

4 環境構成

子どもたちが安心感をもって小学校生活を送ることができるように、学習環境を整えましょう。友達ができる、学習が生まれる仕掛けを工夫してみましょう。

■ スタートカリキュラムスタートセットも活用しよう

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センターより平成27年1月に作成された『スタートカリキュラムスタートセット』は、スタートカリキュラムの意義や編成、実践のポイントなどをまとめた「スタートブック」と幼稚園・保育所等で活動する子どもの姿と学びの様子を載せた「ミニブック」と専用ファイルで構成されています。学校においてスタートカリキュラムを編成・実施・改善していくための参考になります。



「スタートカリキュラムを創ろう！」(8,9頁)や「スタートカリキュラムのマネジメント」(14,15頁)から編成の手順を参考にすることができます。

一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係をきづいていくことをねらいとした学習

- ・登校した児童からランドセルを片付けて、自由遊びができる環境構成を行う。
- ・午前8時30分のチャイムを区切りとして、自由遊びから集団遊び（幼稚園・保育所・こども園などの先生から教わった手遊びやゲーム、歌、ダンスなど）に移行する。

合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習

例「しょうがっこうのひみつをさがそう」

探検隊のメンバーになって、ランドセルのしまい方・道具箱の使い方・ロッカーの使い方・トイレの使い方・下足室の使い方のひみつを探す。各ポイントに写真とひらがなで書かれた説明を掲示しておき、グループでひみつを探しながら、実際に自分の物を片付けていく。全てできたら自分の座席に戻って待つ。全員で振り返りを行う。

「らんどせる の しまいかた」

- ①らんどせる から もってきたものを だして つくえのなか に しまう。
- ②らんどせる を うしろの じぶんのなまえのある たなに しゃしんのように いれる。
- ③このむきに らんどせるを しまうと よい ひみつを みんなで かんがえよう。



例「うんどうじょうをたんけんしよう」

探検隊のメンバーになって、運動場にある固定遊具を探検する。固定遊具で遊びながらそれぞれの安全な使い方を考える。最後に全員で振り返りを行って、固定遊具の使い方についての約束を決める。

未就園児が、在籍している場合には、言葉がけに配慮が必要です。

例「しょうがっこうのことをしよう」

小学校にも、幼稚園・保育所・こども園などと同じ物や同じ事があることを知る。

同じ物：絵本、ボール、椅子、机、ロッカー、教室、靴箱、トイレ…

同じ事：先生がいる、友だちがいる、クラスがある、給食、掃除、係…

これから学校探検を通して、幼稚園・保育所・こども園などと小学校の違うところ（小学校の特徴）を見つけていく、見通しをもたせる。

教科等を中心とした学習

- ・各教員の工夫ある授業と幼児教育の視点を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」のある学習を行う。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（平成29年3月告示幼稚園教育要領）を新入生の姿としてスタートカリキュラムを考えていく。ただし、

これらの姿は、一つひとつがバラバラに見られるのではなく、10の姿の要素全てが含まれていると考えて、新入生を見ていく。



ここがポイント！

スタートカリキュラムモデル第1週目

() 年度 ○○立小学校スタートカリキュラムモデル

[第1週] テーマ：入学おめでとう

目標：一生に一度の入学式に全員で参加しよう

	2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)
8:30 朝学	新学年の準備	新学年の準備	新学年の準備	入学式の準備 ・職員朝会 作業確認	
8:45 朝の会	職員会議 転任教職員着任式 新任教職員着任式	職員会議 職員作業	遠足下見	・新6年生と作業 1年生教室準備 配布物確認	
8:50 1校時					9:00～
9:35					入学式
9:45					クラス写真撮影
10:30					学級開き
中休み					・子どもたちへ
10:45					・保護者へ
11:30					・配付物
11:40					
12:25					
12:25 給食	新任教職員着任式				職員会議 入学式のお礼と 反省について
13:05 昼休み				職員会議	
13:30 そうじ					
13:45					学年会議 入学式の反省と 今後の学級経営に ついて
14:30					
14:35 帰りの会				職員会議 入学式に向けての 最終打合せ	
				学年会議 入学式に向けて 学級開きでの講話 について	
放課後					
時数					行事2

入学式までに

配慮を要する子どもについて、
状況を把握することが大切です。



- ・障がいのある子ども
- ・外国にルーツのある子ども
- ・施設から通学する子ども
- ・友人関係、生活背景、家庭環境等

安心して、学校生活がスタートできるように、引き継ぎや情報収集を丁寧に行い、入学式に向けて準備をしましょう。

その際、引き継いだ内容については、先入観で決めつけるのではなく、子ども一人ひとりの人権が尊重された教育が展開できるように、豊かな人権意識で関わるのが重要です。

理解

実践

改善

スタートカリキュラムモデル第2週目

[第2週] テーマ：学校ドキドキ はじめまして 小学校・先生・友だち・じゅぎょう
目標：安心して小学校生活をおくるために小学校・担任の先生・友だちのことを知ろう

	9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)
8:30 朝学		自由遊び(室内) ・ブロック遊び ・お絵かき ・工作、折り紙等 朝の会 健康観察 ・チャイムの説明	自由遊び(室内) みんなで手遊び 例「落ちた落ちた」 朝の会 健康観察	自由遊び(室内) 歌って踊ろう 例「1年生になったら」 朝の会 健康観察	自由遊び(室内) 歌って踊ろう 例「1年生になったら」 朝の会 健康観察
8:50 1校時 9:35	始業式	・あいさつ 「しょうがっこうの ひみつをさがそう」 ・ランドセルのしま い方のひみつ ・お道具箱の使い方 のひみつ	・地区の説明 地区の子ども会 ・手紙を配る	1年生を迎える会 の練習 ・舞台での並び方 みんなで遊ぼう ・じゃんけん列車 ・もうじゅうがりにいこうよ B	1年生を迎える会 の練習 ・舞台に並んで台詞 と歌の練習
9:45 2校時 10:30	学年会	・ロッカーの使い方 のひみつ ・トイレの使い方 のひみつ ・下足室の使い方 のひみつ 運動場で遊ぼう	「じこしょうかいを しよう」 わたしのなまえは〇〇 です。すきなものは△ △です。よろしくおね がいます。	はじめてのさんすう 「ともだち」(教科書) ・なかまわけをしよう すうじおけいこ「1」	さんすう 「ともだち」(教科書) ・いくつあるかな すうじおけいこ「2」
中休み		(トイレ・手洗い)	運動場で遊ぼう	運動場で遊ぼう	運動場で遊ぼう
10:45 3校時 11:30		・手紙を集める ・手紙を配る ・下校について	「うんどうじょうを たんけんしよう」 ・固定遊具で遊ぼう ・あぶなくない遊具 の使い方を考えよう クラス写真を撮ろう A	はじめてのこくご 「なかよし」(教科書) ・えんぴつの持ち方 ・線を引こう	こくご 「なかよし」(教科書) ひらがな学習「い」
11:40 4校時 12:25		・下校準備 地区毎に教職員の 引率で下校 (給食が始まるまで)	雨天時はAとBを入れかえる		
12:25 給食					
13:05 昼休み		一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていく ことをねらいとした学習			
13:30 そうじ					
13:45 5校時 14:30		合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習 教科等を中心とした学習			
14:35 帰りの会		学校行事等で時間割が動かせないもの			
放課後					
時数 (1組)		生活 3	行事 1 体育 1 国語 1	国語 1 算数 1 生活 1	国語 1 算数 1 生活 1

スタートカリキュラムモデル第3週目

【第3週】 テーマ：学校わくわく 小学校のひみつをいっぱい見つけよう

目標：給食や掃除の仕方を知る。5時間目までの生活リズムに慣れる

	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
8:30 朝学	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
8:45 朝の会	歌って踊ろう 歌「1年生になったら」 朝の会 健康観察	みんなで手遊び 「グーおかし」で何つくる」 朝の会 健康観察	校歌を知ろう 歌「小学校校歌」 朝の会 健康観察	みんなで手遊び 「茶壺」 朝の会 健康観察	絵本の読み聞かせ 『はじめてのしゅくだい』 朝の会 健康観察
8:50 1校時 9:35	1年生を迎える会 ふれあい班顔合わせ	こくご 「なかよし」 ・教科書を読んでみよう ひらがな学習「つ」	こくご 「なかよし」 ・お話を考えよう ・どうぶつごっこ ひらがな学習「く」	こくご 「なかよし」 ・お話をしよう ・どうぶつごっこ ひらがな学習「し」	せいかつ 「れんらくちょうのかきかたをしよう」
9:45 2校時 10:30	ずこう・こくご ・粘土で「い」をつくろう ひらがな学習「い」	給食指導(1組) (例)給食指導は 栄養士さん(中学校区)への連絡調整を行う (さんすう:2組)	2測定(6年生と) 体育館でふれあい班毎に身長と体重を測定していく。待っている時間にカルタや絵本の読み聞かせ。	しゅしゃ・ずこう ・正しい姿勢 ・えんぴつの持ち方 ・きれいにしよう 文字で「つくし」 絵でも「つくし」	ずこう・こくご ・粘土で「り」をつくろう ・「い」と「り」のちがいは? ひらがな学習「り」
中休み	運動場で遊ぼう	運動場で遊ぼう	運動場で遊ぼう	着替えてから遊ぼう	運動場で遊ぼう
10:45 3校時 11:30	せいかつ 「しょうがっこうのことをしよう」	さんすう(1組) 「ともだち」 ・かすをくらべよう すうじおけいこ「3」 (給食指導:2組)	せいかつ(2年生と) 「がっこうたんけん」 2年生がリーダーとなり、校舎内を案内する。	たいいく ・ならびっこ ・ラジオ体操 ・おにごっこ	どうとく 「たのしいあいさつ」 ・自己紹介ビンゴ
11:40 4校時 12:25	下校指導		せいかつ 「しょうがっこうのそうじのしかた」 6年生による給食準備を見る 給食開始	こくご 「なかよし」 ・つくったお話を紹介しよう 1年生で給食準備	さんすう 「ともだち」 ・じゃんけん大会 1年生で給食準備
12:25 給食					
13:05 昼休み					
13:30 そうじ			6年生と合同清掃	6年生と合同清掃	6年生と合同清掃
13:45 5校時 14:30			はじめてのおながく(1組) はじめてのとしょ(2組)	せいかつ 「がっこうたんけん」 ・1年生だけでもたんけんしよう	内科検診 *待ち時間にひらがなおけいこ帳に「り」をかこう
14:35 帰りの会			下校指導		
放課後					
時数 (1組)	行事1 図工2/3 国語1/3 生活1	国語1 生活1 算数1	国語1 行事1 生活2 音楽1	国語5/3 書写1/3 図工2/3 体育1 生活1	生活1 図工1/3 国語2/3 道徳1 算数1 行事1

理解

実践

改善

スタートカリキュラムモデル第4週目

[第4週] テーマ：小学校のルールを知ろう

目標：朝登校したら、すぐに連絡帳を書く。グループで順番や約束を守って活動する

	23日(月)	24日(火)	25日(水)	26日(木)	27日(金)
8:30 朝学	チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく	チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく	チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく	チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく	チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく
8:45 朝の会	朝の会・健康観察	朝の会・健康観察	朝の会・健康観察	朝の会・健康観察	朝の会・健康観察
8:50 1校時	連絡帳の確認 こくご 「かるたであそぼ う」	さんすう 「10までのかず」 ・ボーリング遊び すうじおけいこ 「4・5」	しよしゃ 「なまえをていねい にかこう」	こくご 「こえをあわせて あいうえお」 ひらがな学習「に」	こくご 「しりとりあそびを しよう」 ・言葉集め
9:35 2校時	さんすう 「10までのかず」 ・かずトランプ 10:30 ・はじめてであう すうがくの絵本	たいいく ・ラジオ体操 ・おにごっこ(ふえ鬼) ・40m走(スタート の仕方を知ろう)	さんすう 「10までのかず」 10 になる数の組み 合わせを知ろう すうじおけいこ 「6・7」	せいかつ 「がっこうたんけん」 〇〇先生をさがせ②	せいかつ 「がっこうたんけん」 でみつけたひみつを つたえよう
中休み	着替えから遊ぼう	運動場で遊ぼう	運動場で遊ぼう	着替えてから遊ぼう	運動場で遊ぼう
10:45 3校時	たいいく ・ラジオ体操 ・おにごっこ(色鬼) ・ケンケンバ遊び 11:30	ずこ 「せかいにひとつ だけのはんかち」 ・いろいろな線をつ かって描こう ・片付け 1年生で給食準備	としよ	たいいく ・ラジオ体操 ・おにごっこ(氷鬼) ・40m走(まっすぐ 走ろう)	さんすう 「10までのかず」 10 になる数の組み 合わせを知ろう すうじおけいこ 「8・9」
11:40 4校時	こくご 「こえをあわせて あいうえお」 12:25 ひらがな学習「こ」 1年生で給食準備		せいかつ 「がっこうたんけん」 〇〇先生をさがせ① 1年生で給食準備	こくご・ずこ 「しょうがっこうでい ちばんたのしいことを かこう」 1年生で給食準備	どうとく 「あいさつはだれの ため？」 1年生で給食準備
12:25 給食					
13:05 昼休み					
13:30 そうじ	6年生と合同清掃	6年生と合同清掃	6年生と合同清掃	6年生と合同清掃	6年生と合同清掃
13:45 5校時	ずこ 「いろいろなせんを みつけよう」 14:30 ・片付け	視力検査 *待っている時間 に色ぬりをしよう	音楽 ・校歌を歌おう ・そうさんのさんぽ	こくご ・音読あいうえお ・自己紹介のリハー サルをしよう	こくご 学習参観 ・自己紹介しよう ・音読あいうえお ひらがな学習「へ」
14:35 帰りの会	帰りの会 下校指導	帰りの会 下校指導	帰りの会 下校指導	帰りの会 下校指導	帰りの会 下校指導
6校時 放課後					
時数 (1組)	国語5/3 算数1 体育1 図工1	算数1 体育1 図工2 行事1	国語2 算数1 生活1 音楽1	国語7/3 生活1 体育1 図工2/3	国語2 生活1 算数1 道徳1

スタートカリキュラムモデル第5週目

[第5週] テーマ：小学校の生活に慣れよう

目標：時間割に沿った学習に慣れる

理
解

実
践

改
善

	30日(月)	5月1日(火)	2日(水)	4日(木)	5日(金)
8:30 朝学		チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく	チャレンジ 連絡帳を書く 終わったら、絵本 を読む、自由帳に かく		
8:45 朝の会		朝の会・健康観察	朝の会・健康観察		
8:50 1校時 9:35		こくご 「かき、かぎ」 ひらがな学習「の」	さんすう 「なんばんめ」 すうじおけいこ 「10・0」		
9:45 2校時 10:30		聴力検査 ＊待っている時間に ワークブックの直し や色ぬりをしよう	たいいく ・ラジオ体操 ・行進練習をしよう 「みんなでそろえて 歩こう」		
中休み		着替え	運動場で遊ぼう		
10:45 3校時 11:30		たいいく ・ラジオ体操 ・サーキット(いろ いろな固定遊具を使 ってみよう)	ずこ 「おきにいのこの のぼりをつくろう」 ・パスの使い方 ・色をぬりこむ		
11:40 4校時 12:25		さんすう 「なんばんめ」 1年生で給食準備	・片付け 1年生で給食準備		
12:25 給食					
13:05 昼休み					
13:30 そうじ		家庭訪問 →			
13:45 5校時 14:30					
14:35 帰りの会					
6校時 放課後					
時数 (1組)		国語1 行事1 体育1 算数1	算数1 体育1 図工2		

スタートカリキュラムの授業モデル1

生活科を中心とした合科的・関連的な授業のモデル
～子どもたちの学びにストーリー性をもたせる～

せいかつ：がっこうたんけんをしよう

導入は、

先 生：「小学校には、どんなお部屋があるかなあ？」

子ども：「1年1組の教室、保健室、あとは・・・」

先 生：「幼稚園や保育所やこども園と同じかな？ちがうかな？」

子ども：「ちかう！でも、同じところもあるかも・・・」

先 生：「小学校を探検して、ひみつをさがそうかあ？」

子ども：「うん！さがしてみる！」

未就園児が、在籍している場合には、言葉がけに配慮が必要です。

展開として、

- ① 理科室、家庭科室、音楽室、図工室、図書館、職員室、校長室、保健室等のひみつを見つける。

ポイント：先生がひみつにつながるヒントをこっそり教えてあげる

「ガイコツがいる部屋を見つけよう」

「音楽室にある楽器を3つ探してみよう」

数の数え方（算数）

「図書館では本が借りられるかきいてみよう」等

- ② 教室にもどってきて、見つけたひみつを紹介し合う。

子ども：「理科室にがいこつがいたよ。こわかったけど、おもしろかった！」

先 生：「どうして、理科室にガイコツがあったのかな？」

探してみたい・知りたい好奇心

子ども：「音楽室に、もっきん、てっきん、たいこがあったよ」

（「もっきん」と「てっきん」を板書して）

先 生：「同じ文字はどれ？違う文字はどれ？」

文字への好奇心をたかめる（国語）

子ども：「本は1冊かりられるって聞いたよ」

先 生：「すごい！図書館の先生に質問できたんだね」

他の先生に質問できる力

発展として、

小学校でみんなのことを支えてくれている人（校務員さん、調理員さん、事務職員さん、教頭先生等）のひみつを探検することもできる。

他にも、子どもたちがそれぞれ見つけたひみつを紹介する中で様々な教科学習への興味・関心及び好奇心を引き出し、他教科との関連を重視したい。



スタートカリキュラムの授業モデル2

理
解

実
践

改
善

国語科の授業のモデル

こくご：こくごたんけんをしよう

導入は、

先 生：「こくごって何をべんきょうするのかな？」

子ども：「ひらがな？教科書？他には・・・」

先 生：「ひらがなや教科書を探検して、ひみつを見つけていこう！」

展開として、

- ① 教科書のさし絵をもとに、お話をつくろう

ポイント

先 生：「こくごの教科書に出てくる動物さんたちは何を話しているかな？」

- ② ひらがな学習をしよう

ポイント

- ・音韻指導「『いぬ』なら手拍子で2はく、『いちご』なら手拍子で何はく？」
発展として、促音「っ」のところでは胸をたたく。

（「ねっこ」なら、ね(手拍子)、っ(胸ポン)、こ(手拍子)と打つ）

- ・音声指導「黒い●を『い』であらわそう。例えば、●～ならどう言うかな？」
（例  なら「い～い～い～」）

（例  なら声の大きさをだんだん大きくして「い・い・い」）

- ・言葉集め「『い』のつく言葉を集めてみよう。」

発展として、

最初につく言葉は1点、最後につく言葉は2点、途中につく言葉は3点など
得点化する。（例「いも」1点、「かい」2点、「こいぬ」3点）

- ・「い」がつく言葉クイズ「私はどうぶつです」

発展として、子どもからの質問を聞いたり、子どもに問題を考えてもらう。

（例「どんな色ですか？」（質問）、「私にはしっぽがあります」（問題））

- ・文字指導(書き順)「人差し指で空に『い』を書いてみよう。い～ち、にい」

発展として、お尻で空書き、大きく、小さく、新幹線の速さ、カタツムリの速さで書く等。

- ・文字指導(字の形)「4つのマスを使って、お手本そっくりな『い』を書こう」

（例 ねずみさんの右手からはじまってとらさんの左手まで
下がってぴょんっ、さるさんの右手からはじまって
ぶたさんの左耳でとまる）



スタートカリキュラムの授業モデル3

算数科の授業のモデル

さんすう：さんすうたんけんをしよう

導入は、

先生：「さんすうって何をべんきょうするのかな？」

子ども：「たしざん！ひきざん！」

先生：「そうだね、たしざんやひきざんもべんきょうするね。
いっぱい計算ができるようにさんすうもたんけんしよう！」

展開として

- ① 学校のなかにある数をみつけて、「たんけんてちょう」に○をつけよう

先生：「みんなはいくつまで数を知っているかな？」

子ども：「10までは書けるよ！」「わたしは100まで数えられるよ！」

子ども：「パソコン室のパソコンが21だいあったよ」

子ども：「池のコイをかぞえたら4ひきいたよ」

子ども：「6年1組ってかんばんをみつけたよ」

子ども：「ぼくの出席番号は、34番だ」

先生：「みんなが見つけた数をあわせるとたくさん○がつけられるね」

【たんけんてちょう】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲
⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲

- ② 10までの数字と丸図でトランプ遊びをしよう

ゲーム例：数字と図のマッチング

先生：「10までの数字と丸図で数合わせをしよう！」

子ども：「1のカードと丸が1つのカードだからそろったね」

他にも

ゲーム例：数量関係

先生：「持っているカードを出して大きい小さいで
勝負をしよう」

ゲーム例：数の合成・分解

先生：「2まいカードを取って数をあわせるといくつ？」



- ③ 数と絵で「すうじの絵本」をつくろう

先生：「べんきょうした数字をつかって、お気に入りの絵本をつくろう」

子ども：「わたしはお花の絵本にしよう♪」

ポイント

数を数字とブロックと好きな絵で表す。このとき同じ絵
(例えばチューリップが2輪)を描く子どもの他にも、
ちがう絵(例えばリンゴとミカンをもつ)だけれど
同じグループ(例えばフルーツ)の絵を描く子どもが
いればそれも認めてあげる。

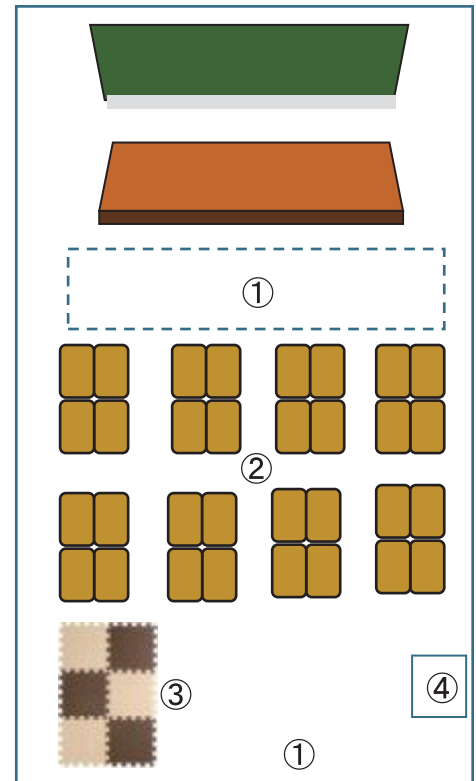


★安心するための環境構成

入学当初は幼児教育の環境を参考にする。

例えば、

- ① 黒板の前や後ろに全員が集まれるスペースを設ける。
- ② 座席をくっつけて班型にしておく。
- ③ ジョイントマット等を敷いたスペースを設ける。
- ④ コマやけん玉、ぬいぐるみ等を置いておく。

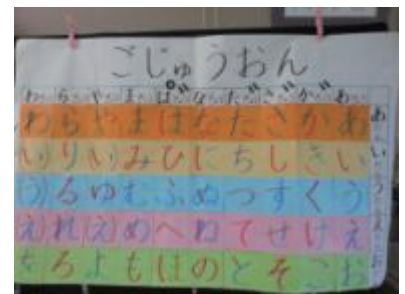


☆書くための環境構成

文字に対する関心をもつようにするために

例えば、

- ①教室にひらがな表、カタカナ表、学習する漢字一覧表などを学習進度に合わせて掲示する。
- ②作文用紙やカード類の置き場所が子どもに分かるように示しておき、書きたいときに自分で取り出して使ってよいことを伝えておく。
- ③教室や廊下の一角に、子どもたちの書いた文を掲示し、表現の工夫をまねることができるように価値づけて話しておく。



●担任の先生が一番の環境



ここがポイント！

子どもたちにとって、担任の**先生**の笑顔こそが**一番の環境**

小学校の全教職員が〇〇小学校の先生として、一人ひとりの子どもたちをやさしく見守ることで安心できる環境をつくりだせる。

※朝の健康観察では、全員の子どもたちと関われるチャンスと捉え、一人ひとりの子どもと会話をすることでお互いを知ることができる。

編集にあたって

大阪府では、平成28年度より文部科学省の事業「幼児教育推進体制構築事業」を受けて、「大阪府幼児教育推進体制調査研究実行委員」を中心とし、幼児教育センターの設置に向けた研究調査を実施してまいりました。その中で、平成30年度より新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全面実施により、就学前の全ての子どもたちの教育内容の整合性が図られ、小学校教育との円滑なつながりを実現していくことが求められてきました。そこで、大阪府幼児教育センター設置準備室として、平成29年度大阪府教育センター研究フォーラムで実践発表していただいた調査研究の成果をもとに、この「スタートカリキュラム学びの接続モデルリーフレット」を編集することにいたしました。関係の皆様には多大なるご協力を賜りましたこと感謝申し上げます。

今後とも、大阪府幼児教育センターとして、大阪府の幼児教育と小学校教育がつながる調査研究を実践してまいりたいと思います。このリーフレットが、大阪府の全ての小学校で、幼児期の学びの芽生え（無自覚な学び）を児童期の自覚的な学びへと学びをつなぐスタートカリキュラムづくりの参考となればと願っております。



平成30年3月31日
大阪府幼児教育センター設置準備室

スタートカリキュラムとは、幼児期の学びの芽生え(無自覚な学び)を児童期の自覚的な学びへと学びをつなぐもの



～幼小接続から小小接続、さらに小中接続へ～



大阪府幼児教育センター
〒558-0011 大阪市住吉区苅田 4 丁目13番23号 大阪府教育センター内
TEL 06(6692)1882 (代表) / FAX 06(6692)1898
URL <http://wwwc.osaka-c.ed.jp/oyk-c/>

このリーフレットは3200部作成し、1部あたり33円です。